

# 明日に向かって ともに創る ⑦

大船渡市長 戸田 公明

## 大船渡はとも元気なまちになってきました

大震災から7年余りが過ぎました。この間いろいろありましたが、復興を通じて大船渡はとも元気なまちになってきました。さまざまな事例があります。主なものを紹介します。

### ■新しいことをどんどん取り入れています

・大震災直後の米国・英国の国際捜索救助隊の受け入れにはじまり、ボストンのボランティア団体受け入れとその後の交流、アーカンソー州立アーカンソーテック大学によるキッズサマースクール、サンディエゴ・ティファナ日本協会を通じて野球少年交流など、国際交流が盛んになりました。平成25年、復興需要で元気になった経済を、復興需要後も維持するため、市役所内に起業支援室を設け、起業支援・人材育成・ビジネスプランコンテストの開催などを毎年行ってきました。その結果、約240名の起

業者、93名の人材育成がなされ、市内経済最前線で活躍しています。

### ■元気な事例が増えてきました

最近、小中高生・成人・地元企業から全国的な賞を受賞する方が多く生まれています。例えば小学生による農林水産大臣表彰、高校生による文部科学大臣表彰、漁業者による内閣総理大臣表彰など多くの皆さんが元気に頑張っています。

・高齢者の皆さんも、元気に活動されています。さまざまな高齢者による活動のほか、ここ1・2年、市内各所にお茶のみサロンなどが多数(市が把握しているもので約80カ所)生まれ交流が盛んになってきました。

### ■経済も元気になってきました

「岩手県市町村民経済計算」によれば、市内総生産と人口1人当たり市民所得は震

災前に比べ各々約1・5倍(平成27年度)になり、市民所得は県内でもトップ5市町に入りました。これは、復興需要によるところもありますが、前述したような起業・人材育成、さらには震災後新たに誘致した企業なども寄与しています。また、年収・収入に関する総合情報サイト「年収ガイド」によれば、平成27年度市民所得は県内では盛岡市に次いで2番目です。

### ■合計特殊出生率も向上してきました

平成22年度の1・49から上昇傾向で推移しており、平成28年度には1・63になりました。これは県内14市の中ではトップ、県内33市町村でも上位に位置しています。

少子高齢化・人口減少は国家的な最大課題ですが、これを乗り切るには合計特殊出生率が2・07よりも高くなるよう、子育てを取り巻くさまざまな環境を良くし続けなければなりません。市民所得の上はその中で最も大事なものの一つです。

このように大船渡は、元気にまちに変わってきました。皆さん、明るい前途を目指し大船渡に自信を持ってさらに前に進んでいきましょう。

## 三陸鉄道からのお知らせ

### 三陸鉄道面白利用アイデアコンテストを実施します

三陸鉄道の駅、車両、施設、企画列車などの面白い利用方法を募集します。審査の上、素敵なアイデアを投稿された人に賞品をプレゼントします。ぜひ、皆さんご応募ください。

▷応募方法＝三陸鉄道の面白い利用方法のアイデアをコメントを添えて、次の①から③のいずれかの方法で応募してください。

【例】釣り名人と一緒に列車から釣りをしたい、車両内で宿泊をしたいなど

- ①Eメール(idea@sanrikutetsudou.com)に送信
- ②フェイスブックの「三陸鉄道面白アイデア投稿キャンペーン」ページに投稿
- ③ツイッターに「#三鉄いいね」のハッシュタグを付して投稿

▷問い合わせ先＝三陸鉄道(株)(☎0193②8900) / 岩手県交通政策室(☎019-629-5204)

- ▷応募期限＝7月17日(火)～7月31日(火)
- ▷賞品＝厳正なる審査の上、社長賞(1位)、三鉄協賞(2位)、三鉄社員賞(3位)、三鉄君賞(特別賞)を選定します。また、先着100名に参加賞をプレゼントします。
- ▷留意事項
  - ・当選者には賞品発送のため、後日Eメールなどを送信するので、Eメールで応募される人はあらかじめ「@sanrikutetsudou.com」の受信設定をすること
  - ・入選作品は公表などを行う場合があること
  - ・投稿アイデアについて、第三者から異議申し立てや苦情が出ないように留意すること
  - ・投稿アイデアは投稿者のオリジナルとすること